

健診センター

1. スタッフ

部 長 (センター長・教授)	梶井 英治
副 部 長 (講師)	宮下 洋
医 員 (講師)	岩本美智子 (派遣中)
非常勤医員	11名
看 護 師 主任看護師	1名
看 護 師	4名
保 健 師	11名
管理栄養士	1名 (兼任)
臨床検査技師	6名: 4名+超音波技師 (兼任2名)
診療放射線技師	4名 (兼任)
事務職員	6名 (業務委託5名)

2. 健診センターの特徴

総合健診 (一日ドック) の専門施設として健診業務を行っている。健診は、

- 1) くつろいだ雰囲気の中で、迅速・正確な検査
- 2) 的確な結果判定と科学的根拠に基づく健康指導
- 3) 安心のフォローアップシステム

の3つの理念の下に、附属病院とは独立した建物 (自治医科大学一号館) 内で行われ、受診者はゆとりあるスペースと落ち着いた雰囲気の中で健診を受けることができる。内容的には、日本人間ドック学会、日本総合健診医学会の推奨に準拠し、健診項目には労働安全衛生法による定期健診の必要項目及びがん検診に関する項目が含まれ、また平成20年度から開始された特定健康診査の必要項目も含まれる。

附属病院の各専門診療科医師による多大な支援を受け、健診内容の質を高めている。婦人科検診は産科婦人科、眼底写真読影は眼科、心電図判読は循環器内科、腹部超音波及び乳房超音波の読影は臨床検査部、細胞診は病理診断部、マンモグラフィー読影は外科、PET-CTの読影は中央放射線部の専門医にそれぞれ協力をいただいている。また、胸部X線検査、上部消化管X線検査、頭・胸・腹部CT検査は外部の放射線科専門医と二重読影を行っている。

画像診断以外の検査結果は、学会標準の判定基準に準拠し、健診専門医の判定ロジックをプログラムシカスタマイズされた健診コンピュータシステムは迅速かつ間違いの無い自動判定を可能にしている。健診当日の面談では医師がその結果を丁寧に説明し、メタボ対策を中心に健康指導を行っている。

平成20年度から健診センターの2階に個別指導用の面談室、集団指導用の小講義室、待合室などからなる

保健指導室を開設して、総合健診で「動機づけ支援」、「積極的支援」に階層化された受診者に対し特定保健指導を行っている。健診当日および後日予約による指導ともに対応可能な体制をとっている。

平成20年度の特定健康診査・特定保健指導の制度開始にあわせて一新した、健診業務コンピュータシステムが健診・保健指導を併せて発生する、膨大な健診結果・保健指導・会計データを保存・管理を容易にしている。また、旧来の紙媒体を中心とした非効率の業務を減らし、無駄の少ないペーパーレスの業務への移行を実現している。過去15年以上にわたる健診データもこのシステム内に保管されており、必要に応じて随時参照・比較することができる。迅速な検査と健診コンピュータシステムによる正確な結果判定は、必要であれば健診当日に特定保健指導対象者を自動抽出して初回指導まで行うことを可能にしている。

認定施設

日本病院学会 優良人間ドック施設

日本総合健診医学会 優良総合健診施設

認定医

日本内科学会認定内科医

日本医学会認定産業医

3. 業務内容と実績

総合健診は一日36名を上限として予約を受けている。基本的健診項目は、マークシート問診票による問診、身体計測 (身長、体重、腹囲、BMI)、視力、聴力、眼圧、眼底写真、血圧測定、尿検査、血液検査、呼吸機能、心電図、胸部X線検査、上部消化管X線検査、便潜血反応、腹部超音波検査などである。オプション検査として、平成19年度からPET-CT検査が追加され、従来から行っている頭部、胸部、腹部CT検査、胃抗体検査 (ピロリ菌抗体、ペプシノーゲン)、腫瘍マーカー、婦人科検診 (内診、子宮細胞診)、乳房検診 (マンモグラフィー検査、超音波検査)、骨密度検査とともに充実した内容となっている。また平成20年度には6月から最新鋭のデジタルマンモグラフィーが導入され、乳癌健診の診断精度向上に威力を発揮している (表1)。

2008年1月から12月までの年間受診者数は、7,820人 (健診実日数241日、一日平均32人) で、大手企業や健保組合等の団体との契約によるものが中心になっている。当センターの特徴として反復受診されるリピータが多く、約85%を占めていることから、受診者に満足いただいていることが窺われる。また、本学教職員も332名が受診されており、今後実施予定の特定保健

指導と併せて、本学の福利厚生施設としても役割を担っている。この健診およびその後の精査で発見されたがんは16例であった（表2）。

保健指導実績は年度途中の7月から始まったこと、健保組合等の対応の遅れもあり、健診当日の階層化による19名の実施にとどまっており、特定保健指導とは別にメタボリックシンドローム該当者を中心に簡易指導を実施している（表3）。

表1 放射線関係のオプション検査施行実績

	2007年 (4～3月)	2008年 (1～12月)
PET-CT	43	35
頭部CT	1,264	1,222
胸部CT	382	416
腹部CT	977	975
マンモグラフィー	403	684
骨密度 (DEXA)	274	265

表2 健診で発見されたがん

乳がん	3
胃がん	3
卵巣がん	3
前立腺がん	2
子宮頸がん	1
直腸がん	1
大腸がん	1
肝がん	1
肺がん	1
計	16

表3 受診者の特徴とメタボ判定および保健指導実績

		男性	女性	計		
健診	総受診者数 ³⁾		4,553	3,170	7,723	
	年 齢		51.7±8.8	50.3±8.6	51.1±8.8	
	特定健診	メタボ判定	判定対象者数 ²⁾	3,501	2,368	5,869
			メタボ該当	864	128	992
			予備軍該当	667	125	792
		保健指導レベル階層化	判定対象者数 ²⁾	3,365	2,282	5,647
			積極支援	752	92	844
	動機づけ支援	313	147	460		
保健指導 ¹⁾	特定保健指導	特定保健指導契約受診者 (7～12月)	122	145	267	
		実施実績	積極支援	13	4	17
	動機づけ支援		1	1	2	
	計		14	5	19	
	簡易保健指導		156	80	236	

2008年 (1～12月)

- 1) 保健指導に関しては7～12月の実績
- 2) メタボ判定・保健指導レベル階層化は4月からの制度開始後の数
- 3) 総受診者数は、人間ドック受診日以外に行うPEL検査・特定保健指導等を除いた数

4. 事業計画

急性期医療を中心とした医療の経済的破綻を背景として、医療システムが特定健診をはじめとする健診・予防医療へシフトしていく社会情勢やニーズへ対応すべく、当健診センター運営方針としては：

- ① 受診者の満足を提供できる内容の充実
- ② 業務の効率を高めることによる事業規模拡大を基本方針としている。

今後の事業計画としては、上部消化管内視鏡検査の導入を最重要課題として、2010年度からの実施を目標に準備を進めているところである。また、業務を効率化してより多くの受診者に質の高い健診・保健指導サービスを提供できるよう、健診業務コンピュータシステムを更新して業務のペーパーレス化等の合理化を行ってきた。さらに画像検査機器をフルにデジタル化し、検査画像をオンライン化することで、検査時間の短縮と受診者への説明内容の充実を図っていく計画である。

また、特定健診によりメタボリックシンドロームへの関心が高まっているのを背景に、メタボに伴う代謝障害による血管や身体の老化状態の進行状況評価のニーズも高まっている。これに対応したアンチエイジングコース等の新設も前向きに検討している。

自治医大の附属施設として、関連分野への医学的貢献も重要な課題と考えており、健診受診者を対象とした臨床研究の活性化を図っている。既に人類遺伝学部門と共同で「内臓脂肪蓄積と血圧脈波波形に関する遺伝子解析研究」が進行中である。また、特定保健指導の効果に関する研究を計画中である。